

2016 年度
日本語ボランティア研修会 実施報告書

外国人・日本人と一緒に作る
日本語教室の試み



2017 年 3 月
公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)

URL www://yoke.or.jp

Email c-nihongo@yoke.or.jp

2016 年度日本語ボランティア研修会 概要

- 【研修 1】日本語ボランティア研修会（全 3 回）**
日本語を勉強したことがある外国人と日本人ボランティアで話し合おう
「外国人・日本人と一緒に作る教室で、何ができる？」
- 【研修 2】教室実習型研修（日本語教室）（全 5 回）**
『「横浜に暮らす人のための日本語教室」体験研修』

日本語学習経験のある外国人と日本語ボランティアが共に作り学ぶ研修会を、2段階で実施しました。

- 趣 旨
- ・日本語学習者（外国人）の学習経験や声を教室に生かすことで、多様性を生かす教室づくりと、多文化コミュニケーションの実践を試みます。
 - ・外国人が、日本語教室の活動の中で、持っている力をもっと発揮できる方法を試みます。
 - ・これらにより、「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援の充実を図ります。

- 日程、会場 【研修 1】日本語ボランティア研修会
2016 年 11 月 11 日・18 日・25 日（金）13:30-16:00
緑区市民活動支援センター「みどりーむ」（緑区）にて

- 【研修 2】教室実習型研修（日本語教室）
2017 年 2 月 1 日、3 月 1 日（水）13:30-15:30
2 月 8 日・15 日・22 日（水）12:30-15:30
公益財団法人横浜市国際交流協会会議室（西区）にて

教室実習型研修とは⇒・研修受講者にとっては、研修（＝教室活動の観察・体験）
・学習者にとっては、日本語教室（＝学習機会の提供）

- 講師等
- 塩原良和さん（慶応義塾大学教授）
武一美さん（早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師、
NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ理事）
朴美眞さん（特定非営利活動法人国際交流ハーティ港南台交流部会・韓国出身）
木下アゼネットさん（フィリピン出身）

- 受講者 【研修 1】●日本語ボランティアをしている／これから始めたい外国人 11 人（延べ 26 人）
（8 か国地域：アメリカ、インド、インドネシア、カナダ、シンガポール、台湾、
中国、ブラジル）
●日本語ボランティアをしている日本人 19 人（延べ 44 人）
【研修 2】●外国人 4 人（延べ 16 人）（2 か国地域：台湾、中国）
●日本人 17 人（延べ 77 人）

- 主 催 公益財団法人横浜市国際交流協会

■各研修会の内容

日本語ボランティア、
外国人が共に学ぶ

【研修1】日本語ボランティア研修会

日本語を勉強したことがある外国人と日本人ボランティアで話し合おう

「外国人・日本人と一緒に作る教室で、何ができる？」

【ねらい】日本人・外国人が互いの経験を共有しながら、協働で日本語教室の活動を作ります。

【講師等】講師：塩原良和さん、武一美さん／アシスタント：朴美眞さん、木下アゼネットさん

【内容】

回	実施日時	内容	参加者
1	2016年 11月11日 13:30- 16:00	<u>テーマ</u> 日本語学習経験者の声を聞く (⇒p4) ●インタビュー：日本語学習経験談 ●講義：コミュニティとしての日本語教室 ●グループワーク：日本語教室は好きですか？ ●全体ディスカッション	受講者 24人 講師等 3人
2	11月18日 13:30- 16:00	<u>テーマ</u> 外国人と日本人と一緒に作る教室で、何ができる？ (⇒p5) ●日本語学習経験者による体験談 ●ディスカッション：合同	受講者 25人 講師等 3人
3	11月25日 13:30- 16:00	<u>テーマ</u> 教室活動案を作ってみる (⇒p6) ●外国人も日本人も楽しめる教室活動案を作ってみる。	受講者 21人 講師等 3人

【研修2】教室実習型研修（日本語教室）

「横浜で暮らす人のための日本語教室」体験研修

さらに、学習者を迎えて
日本語教室を実践！

【ねらい】学習者が自分の力を発揮して日本語を十分使うことのできる場を作り、日本語使用者としてのエンパワメントを目指す教室を実現します。教室活動の背景にある考え方を学び、地域の活動に生かすことを目指し、日本語教室活動を実際に体験します。

【日本語教室】「横浜で暮らす人のための日本語教室」

【講師等】講師：武一美さん、朴美眞さん／アシスタント：木下アゼネットさん

【内容】

回	実施日時	内容	参加者	
1	2017年 2月1日 13:30-15:30	<u>事前研修</u> (⇒p7) ●研修1の振り返りと、研修2の導入。 ●次回活動「お話作り」に向けての準備	研修受講者 20人 講師等 3人	
2	2月8日 12:30-15:30	<u>日本語教室の体験1</u> (⇒p8) ・活動体験と振り返り ・次回活動の準備	日本語教室 (90分)	
3	2月15日 12:30-15:30	<u>日本語教室の体験2</u> (⇒p9) ・活動体験と振り返り ・次回活動の準備		研修受講者 18人 学習者 15人 講師等 3人
4	2月22日 12:30-15:30	<u>日本語教室の体験3</u> (⇒p10) ・活動の振り返り		研修受講者 18人 学習者 13人 講師等 3人
5	3月1日 13:30-15:30	<u>全体の振り返り</u> (⇒p11)	研修受講者 19人 学習者 11人 講師等 3人	
			研修受講者 18人 講師等 3人	

【研修1】
日本語ボランティア研修会

第1回 日本語学習経験者の声を聞く

2016年11月11日

【この回のねらい】

➤ 地域日本語教室が語学学習の場だけではなく、一つのコミュニティであるという視点を持ちます。

【研修の様子】

1. 地域日本語教室で日本語を学んだ外国人から、経験談を聞きました。

「日本語をどのように学習しましたか」「あなたにとって、地域日本語教室はどのような場所ですか」

話し手：アシスタントのお二人（フィリピン出身・韓国出身）

〈経験談〉

- 日本語能力試験を受けて仕事ができる。先生が励ましてくれた。先生や友達との関係は今も続いている。
- 最初は勉強する場所。それから人との付き合いに変わっていった。
- やすらく場であった。
- 社会とつながる場であった。不安や悩みを相談できた。
- 日本語教室があったから、今の自分がいる。



2. 1を受けて、外国人・日本人それぞれに分かれて、話し合いました。

【外国人】話し合い

「日本語教室のどこが好き？」

- 話す勇気がわく。
- 色々な経験ができる。話題ができる。
- 色々な人と会話ができる。
- 新しい単語が勉強できる。
- 友達ができる。
- 自分の勉強したいことができる。

【日本人】講義「コミュニティとしての日本語教室」

- 地域日本語教室ならではの役割とは？
→キーワード「コミュニティ」「主体的参加」
- 地域日本語教室の「コミュニティ」としての機能を活かす。
- どうやったら主体的な学びの場にできるかを、学習者と支援者が一緒に考えるところから始める。



3. 外国人と日本人が、一緒に話し合いました。

「外国人と日本人と一緒に教室を作るには、どうすればいいでしょうか？」

- 学習者が支援者になる（英語で漢字を教えている例）。
- 初心者は同じ国の人を集めて母語サポートするとよいと思う。助けになった。
- ジェスチャー、スマホでも分かり合える雰囲気がいい。
- 安心して過ごせる場、日本人も幸せになる教室。
- 学習者をイベントの手伝いに誘う。
- フィードバックやアンケートを行ってはどうか。

■受講者の声（アンケートから）

- 学習者の生の声が聞けて良かった。（日）
- 外国人の学習者と日本人の支援者が一緒に話し合いができてよかった。（外）
- 日本語教室だけでなく、外国人とのかわりについて参考になった。（日）

【研修1】
日本語ボランティア研修会

第2回 外国人と日本人と一緒に作る教室で、何ができる？

2016年11月18日

【この回のねらい】

- ▶ 外国人も日本人も、日本語教室での体験を振り返り、コミュニティとしての日本語教室のイメージを共有します。そのうえで、このメンバーと一緒に何をしたいか、何ができるかを話し合います。
- 【外国人】個として発言できるという自信を持ち、必要な日本語を調べたり、聞いたりして発言できる。
- 【日本人】外国から来た人と共に活動するために、言葉だけでなく、どのような要素が重要なのかを体験します。日本語だけに焦点化しないことを体験します。

【研修の様子】

1. 「私にとって、日本語教室とは？」前回の復習をもとに、講師の経験談を聞きました。



- 内向きの「まとまり」⇒居場所として。日本語を学ぶ場。何でも話せる場、一緒に楽しむ場、人との付き合いの場。やすらぐ場、一緒に勉強する友達がいる。言葉の他にも、どんな問題も全て扱ってくれる。
- 教室の外との「つながり」⇒地域とのつながりができた。仕事についた。

2. 外国人・日本人それぞれに分かれて、話し合いました。

「日本語教室で良かったことは？」「日本語教室にいて、どんないい変化がありましたか」

【外国人】

- ・色々な国の人の考えを知り、視野が広がった。
- ・何でもすなおに話すことができるようになった。
- ・先生も分からないことがあると知って、自分も分からなくて当然。一緒に勉強しよう。
- ・日本の生活が楽しくなった。楽しめることが多くなって、やってみみたいことが増えた。
- ・ボランティアを始めた。
- ・ストレス解消、もっとしゃべりたい。

【日本人】

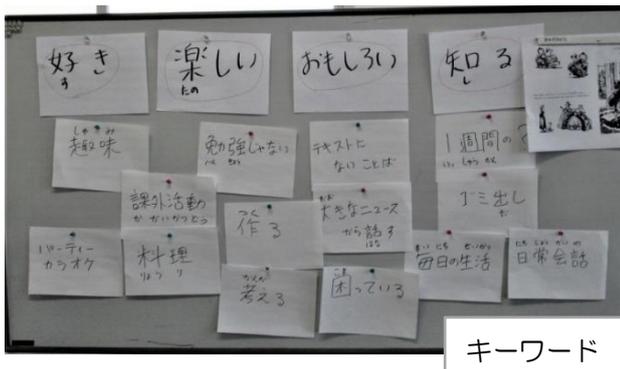
- ・日本人、日本語、日本文化、習慣などを考えるきっかけになった。
- ・日本のことを知らない自分に気が付いた。
- ・一方通行の授業はつまらない。双方向に学べる授業がいいと思った。



3. 外国人と日本人が、一緒に話し合いました。

「日本人と外国人と一緒に作る教室で何ができるでしょうか」

- 1 キーワードを考えます。そのために、お互いを知ります⇒
- 2 このメンバーで何ができるか/したいか考えます



キーワード

●何ができるか/したいか (=活動案)

- ・料理や趣味のことをしながら、会話できる。
- ・日常生活をメインに、それに関係する会話・漢字等を勉強する。
- ・大きなニュースから色々な話につなげる。
- ・コーヒー缶の絵を見て、「あなたならどんな絵にする？」について話す。
- ・課外活動 ・パーティ ・カラオケ
- ・ゴミ出し ・学校のお知らせ ・1週間分の聞きたいこと、分からないことを、持ってきてもらう。

【研修1】
日本語ボランティア研修会

第3回 教室活動案を作ってみる

2016年11月25日

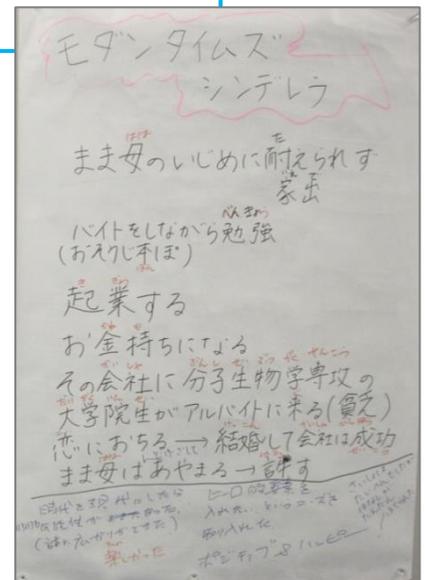
【この回のねらい】

- 「外国人と日本人が共に作る教室」を体験します。
- その体験を通して「共に作る」ことについて更に考え、「活動案を作る」という具体化をします。

【研修の様子】

1. みんなと一緒に「楽しむ」活動を体験しました～「わたしのシンデレラストory」づくり～

『シンデレラ』のその後のお話」を、グループメンバーが協力して作りました。
1 お話の1シーンを読み ⇒ 2話の続きをグループで作る ⇒ 3 模造紙に書き
⇒ 4 発表しあい ⇒ 5 この活動をふりかえりました



2. 「このメンバーで来週する活動案」を作りました。

外国人・日本人が、一緒に活動案を考えました。

活動案づくりで気が付いたこと

- 参加している人が、それぞれ、頭と心を使って、アクティブに、主体的に活動に関わる。
- 「みんなで作る」= 「一緒にプランを作る」+ 「一緒に活動する」
- 外国人も日本人も平等に、お互いのしたいことを知る。
- それぞれの持っている力が最大限に発揮されるような役割分担を、みんなで考える。

【このメンバーで来週する活動案】

- クリスマス会をする。
- 日本語教室新年会の企画
- ニュースを分析する。
- New 日本語教室をつくる
- そうだ 熱海へ行こう。

■ 受講者の声(アンケートから)

- ・ たのしい活動ができてとてもよかった。(外) ・ 今日の活動はおもしろかった。(外)
- ・ 外国の方から直接、話が聞いて良かった。(日) ・ 一緒に企画する楽しさ(日)
- ・ イベントを学習者とともに作るという活動ははじめてで、是非取り入れてみたい方法だと思う。(日)

【研修2】教室実習型研修
(日本語教室)

第1回 日本語教室実施に向けた、事前研修

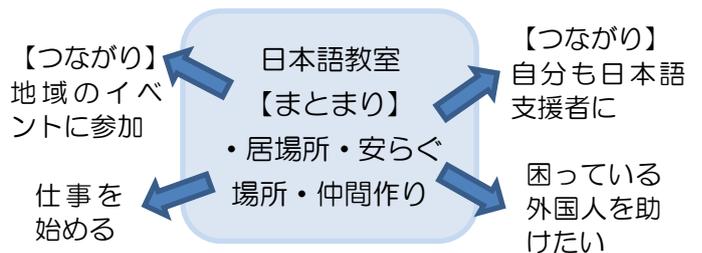
2017年2月1日

【この回のねらい】

- この研修で体験する、「共に作る」「コミュニティとしての日本語教室」について理解します。
- 来週の日本語教室実施に向けた準備。「どんな活動なら全員がたくさん話せるか」を考えます。

【研修の様子】

1. これから始まる5回の研修を確認し、また、参加者が知り合いました。



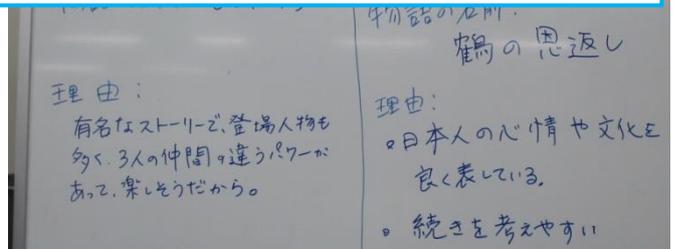
2. 次回の日本語教室「お話しづくり」で扱う、昔話を決めました。

「桃太郎」「浦島太郎」「鶴の恩返し」の中から一つ選びます。

1 三つのお話をグループで読み（分からないところは分かる人が説明しながら）

⇒2 グループで昔話を1つ選び、理由も考え ⇒3 全体発表してから ⇒4 一人1票で投票しました

⇒「鶴の恩返し」に決定！！



3. 目的に合った教室になるよう、準備をしました。

「学習者全員がたくさん話すには、どんなサポートが必要か」という視点から、物語を読み直しました。



「鶴の恩返し」
 まず ころ やさ
 むかしむかし、貧しいけれど、心の優しいおじいさんとおばあさんがいました。
 さむ ふゆ ひ まち う
 ある寒い冬の日、おじいさんは町へたきぎを売りに出かけました。すると途中の田んぼの中で、一羽のツルがワナにかかってもがいていたのです。
 (参考：WEBサイト「あらすじ君」)

- ・「学習者が分かるように、やさしい日本語に書き換える必要がありそう」
- ・「一部の言葉に翻訳をつけましょう」

**【研修2】教室実習型研修
(日本語教室)**

第2回 日本語教室での活動体験

「横浜で暮らす人のための日本語教室1 お話づくり(昔話)」

2017年2月8日

【この回のねらい】

- 【日本語教室】物語づくりを通じて、「共に作る」「コミュニティとしての教室」を体験します。
活動後「たくさん話せたか」「楽しかったか」など、学習者と率直な思いを話し合います。
- 【研修】今回できたこと、できなかったことの内省・対話をし、次回の準備をします。

【研修の様子】

1. 紙芝居と寸劇で、「鶴の恩返し」のおおまかなストーリーを理解しました。



日本語教室のルール

- 1 話しすぎない、聞きすぎない。
- 2 「わかりません」はOK
- 3 「それはだめです」は言わない。

2. お話づくり～「その後の 鶴の恩返し」

グループごとに、お話づくりをしました。

1 研修受講者がお話を読み ⇒2 お話の感想を話し合い ⇒3 話の続きを、アイデアを出し合って考え ⇒4 発表 ⇒5 活動の感想を話し合う

こんなお話ができました

- 鶴と鶴が結婚 日本語がペラペラに
- 冬になったら、鶴の家族と一緒に戻ってきた。
- 幸せで楽しい。毎年雪が降ると、鶴が来る。



学習者の感想

- ・ハッピーなエンディングにしたかった。 ・ストーリーが、自分のように感じて感動した。
- ・中国にも同じストーリーがある。中国発祥の話だと思っていた。

3. 学習者の様子はどうでしたか？～研修受講者の振り返りから～

- ・頑張って日本語を話そうとする意識が見えた。 ・学習者同士で教え合う姿も見られた。
- ・理解できるが話せない人、また、理解できないが話すのが好きな人がいた。
- ・日本語と英語と中国語が飛び交っていた。 ・何をするか理解が難しかったようだ。
- ・絵があったので、物語の理解ができた。 ・物語を理解するのに、時間がかかってしまった。

4. 次回日本語教室「ニュース」の準備をしました。

NEWS WEB EASY の3つの記事から、学習者に合わせた記事をグループごとに選び、必要な事前準備を考えました。

【研修2】教室実習型研修
(日本語教室)

第3回 日本語教室での活動体験

「横浜で暮らす人のための日本語教室2 ニュース」

2017年2月15日

【この回のねらい】

- 【日本語教室】「ニュースを読む」ことで共通の基盤を作り、たくさん話します。
「ニュースに興味を持てたか」「たくさん話せたか」互いの率直な思いを話し合います。
次回(交流会)で何をするのかを話し合います。
- 【研修】「読む」から「話す」につながったか、「共にできたか」を振り返ります。

【研修の様子】

1. 活動(1) 「ニュース」を読んで、話し合いました。

グループごとに、易しい日本語に書き直したり、外国語の語彙表を準備しました。
1 ニュースを読んで ⇒ 2 理解して ⇒ 3 話し合います ⇒ 4 感想を話します



えもじ
絵文字 (注)

ねん にっぽん けいたいでんわ つか はじ
1999年に日本の携帯電話のメールで使い始
めた「絵文字」は、天気「晴れ」のマークや笑っている

(注) 出典「NEWS WEB EASY」(NHKオンライン)

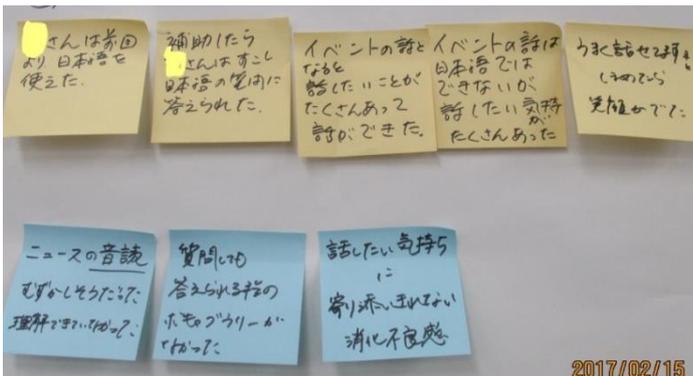
学習者の感想

- ・読むのが難しかったけど楽しかった。
- ・話すのが難しかった。・分かったけど話せなかった。

2. 活動(2) 次回の交流会で何をするか、話し合いました。

グループごとに、活動を考えました。 1 交流会全体のイメージを知り ⇒ 2 グループで何をするのか
話し合い ⇒ 3 プランを発表し ⇒ 4 準備を進めます

3. 学習者の様子はどうでしたか? ~研修受講者の振り返りから~



講師からの問いかけ

- 話せない学習者。何を間におくと、その人が生き生きできるのでしょうか?
- 交流会は「何のために」行うのでしょうか? 趣旨に沿ったプランでしょうか?
- どうすれば「コミュニティとしての日本語教室」になるのでしょうか?

【研修2】教室実習型研修
(日本語教室)

第4回 日本語教室での活動体験

「横浜で暮らす人のための日本語教室3 交流会」

2017年2月22日

【この回のねらい】

- 【日本語教室】体験研修受講者と学習者が、一緒に交流会を作ります。楽しかったか、知り合うことができたか、お互いに意見交換をします。
- 【研修】交流会を体験して、何がどのように交流されたのかをふりかえります。

【研修の様子】

1. 交流会！ ～みんなでする活動と、ブース別活動

ブースに分かれて、交流活動。好きなブースを自由に回り、楽しい交流・体験をしました。

【活動メニュー】ダンス・盆踊り・折り紙・福笑い・すごろく・多言語しりとりゲーム・書道・
いろはカルタ・キューバの話・中国の話など

交流会の終わりには、感想を話し合いました。



得意なダンスを披露！



炭坑節を教えてくれたグループも



書道体験

学習者の感想

- ・カルタが楽しかった。日本語の勉強になった。
- ・遊びながら日本語が勉強できた。
- ・色々な国の文化を知ることができた。
- ・自分も教える人になれて嬉しかった。
- ・中国人だけど、書道を書いたことがなかった。

2. 「交流会」を通じて、新しい発見はありましたか？～研修受講者の振り返りから～

- 学習者と一緒に出し物を考えたから、グループ内での一体感が出て、みんなで楽しめた。
- 日本語だけの押しつけでなく、相手の国の言葉も教えてもらい、双方向の活動になった。
- カルタは、ひらがなが分かるだけの人から上級者までが楽しめる。諺も学べる。
- 手を動かすことで自然と会話につながった。得意分野を活かすことで、テンションが上がった。
- 学習者が活動の準備をすることで、日本語を練習するモチベーションが上がっていた。

学習者の声～全3回の日本語教室に参加して（アンケートより）～

- たくさん学んだ。今は勇気をもって、人と会話するようになった。
- 日本の文化を理解し、日本語の練習もできて、友達もできた。
- 話す練習をするのに、いい時間だった。
- 日本語でのコミュニケーションを学んだ。日本語の会話の練習をした。
- みんなの前に日本語で話す時は緊張するが、鍛えられた。

**【研修2】教室実習型研修
(日本語教室)**

第5回 全体の振り返り

2017年3月1日

【この回のねらい】

- これまでの研修を振り返り、「共に作る」「コミュニティとしての日本語教室」の必要性、実現可能性について話し合います。

【研修の様子】

1. 日本語教室体験で気づいたことを、話し合いました。



第1回（お話づくり（昔話）・第2回（ニュース）で気づいたこと

- 物語やニュースを読む前に、学習者の事を考える必要がある。（学習者ファースト）
- ニュースについては、内容を理解しきれていなくとも、考えることができるので、積極的に話すことができた。
- 日本語で話しを引き出すことが大切なので、内容をより簡単にすることが大事。
- 日本語が分からない学習者にどう対応していいか分からなかった。
- 学習者は自己表現の場になっていたと思う。分からない事は学習者同士で助け合っていた。

第3回（交流会）で気づいたこと

- 交流会では、楽しみながら言葉を学んだことは良かったのではないかな。
- 好きなこと、得意なこと、できることを表現できることが大事。
- ほとんど日本語を話さなかった人が、交流会で、自分の出身地について自分から話した。
- シャイな学習者が自らダンスを披露してくれた。
- 日本文化だけでなく、多文化の紹介できる機会があればよいのではないかな。

2. 「共に作る教室」「コミュニティとしての教室」を、どうとらえましたか。

- 1対1だけの交流ではなく、みんなで一緒に作っていくもの。
- ここに来てよかった。居場所がある。
- 受け身ではない双方向の教室
- 外国人がテーマを提供する立場の教室作りができればよいと思う。
- グループ学習は、仲間も上手になるので意欲がわく。
- 共に作る教室は少しでも楽しめるようなものがよい。
- 様々な教室があってよい。それぞれの団体が特色を持ってやればよい。
- 取り入れやすい教室を作れば、共に作る教室に近づくのではないだろうか。学習者が自分の知識を伝える場があること。楽しい活動であること。
- 先生とよばれたいとは思わない。親しくなるために柔らかい雰囲気があればよい。

実際に活動をしてみたい方へ

外国人と日本人と一緒に作る教室で、 私たちが配慮したことや、活動のコツ

日本語教室を外国人と日本人が「共に作る」にあたって行った工夫のいくつかを、紹介します。

お互いを知る

- 自己紹介／どんな人？
- 何に興味をもっている？ここで何をしたい？
- どんな特技がある？

計画をたてる

- 活動の手順と時間配分を考える
- みんなが計画を知っておく

学習者が日本語で理解し、話すための助け

- 文章をやさしくリライトする
- 語彙リストを準備する
- 紙芝居や寸劇など、ことば以外の手段も活用する
- ワークシートを用意する
- 母語でのサポートができるようにする（同じ母語話者を同じグループに）
- 感想を話すための「やりとりシート」を用意する
- グループサイズの変化。一人で考える⇒ペアで話す⇒グループで話すなど

語彙リストの例

NO	単語	ローマ字	英語	中国語（簡体）
1	鶴	tsuru	a crane	鹤
2	恩返し	ongaeshi	Repayment, To give back	还款
3	貧しい	mazushi i	poor	穷
4	たきぎ	takigi	firewood, wood burned as fuel	柴
5	田んぼ	tambo	(rice) paddy	稻田

感想を話すためのやりとりシート例

「鶴の恩返し」は・・・

昔話は・・・

Old story

むづかしいです... difficult

かんたんです... easy

わかります... understand

わかりません... do not understand

興味があります... interested

興味がありません... not interested

変です... strange / funny

おもしろいです... funny / interesting / exciting

さびしいです... lonely

「お話づくり」は・・・

Story making

たくさん... 話しました... I talked a lot...

すこし... 話しました... I talked a little...

話しませんでした... I did not talk...

とても a lot of

楽しかったです... it was fun

すこし a little

交流会はブース単位で話しやすく



【メッセージ】
研修会をふりかえって

「日本語の教室を共に作る」ということについて

武 一美さん（【研修1・研修2】講師）

「日本語の教室を共に作る」というと変な感じがするかもしれません。そもそも教室で教えるのは先生だから「先生が教室を作る」のではないか、日本語を学ぶ人が「共に作る」ってどういうことだろう、と腑に落ちないのではないのでしょうか。しかし「みんなで作る教室」「先生がいない教室」だって存在すると思うのです。例えば、隣の家の人にお惣菜を上げたら「美味しい！作り方教えて！」と言われて、どうぞどうぞと家にお招きして台所で作り方を教えるなんてこともあります。その場は即席の料理教室だけれど先生はいません。美味しいと言ってくれる人がいるから自分の料理を教えます。（もしかすると、次回は何か美味しいものを相手がくれるかもしれません。）

一方「先生のいない教室では日本語を学ぶことができない」という声もあるでしょう。しかし、今回の実習に参加した学習者からは「日本語の勉強になった」「日本語でのコミュニケーションの仕方がわかった」というコメントがありました。これはなぜでしょう。「鶴の恩返し」「ニュース」など初級の人には難しい内容で改善すべき点はあるものの、今回の日本語教室がニセモノではない本物のコミュニケーションの場であったことの現れだと思っています。教室という場にホンモノのコミュニケーションを立ち上げるのはシンドイことだ（今回参加された方は体験済みですが）と私自身いつも感じています。だからこそ、日本語を教える人も学ぶ人もみんなで力を合わせて共に作っていきたいと考えています。

最後に、「共に作る」「先生がいない」は「教える」と矛盾しないということも付け加えておきたいと思います（ますます分からなくなりましたか？）。



【メッセージ】
研修会をふりかえって

一手間加える事で得られるシナジー効果

朴 美真さん（【研修1】アシスタント・【研修2】講師）

私は納豆が苦手でした。体に良いということは分かっていましたが、何ともいえない食感とネバネバさは納豆を食べることをいつもためらわせるのです。そんなある日、このままではずっと納豆は食べられないと思い、好きなキムチと混ぜて食べてみる事にしました。始めての時、どんな味がドキドキする気持ちでキムチとよく混ぜた納豆を一口食べてみました。そうしたらこれはどういうことでしょうか。発酵させたキムチのさっぱりした酸味と大豆の香ばしさが調和し、さらに風味を高め、何とも言えなかった食感はシャキシャキとしたキムチの食感とよく似合い、同時に二つの食感を楽しめることが出来ました。納豆のネバネバさまではどのようにもできなかったけど、一応味が好きになるとしきりに食べるようになったうえ、そのため、ベタベタするのもあまり気に逆らわないようになりました。

今回の研修会の中で拾った気づきの一つが、まさにこのようなシナジー効果だったと思います。納豆が体に良い物だというのは分かる（日本語学習が絶対に必要だというのは分かる）が少しは苦手（やり方の戸惑い、何処か少しは物足りない、つまらない等）。その納豆にキムチを混ぜる事（既存の日本語学習式に、共に作る事をプラスした事）によって味も食感もとても良くなった（楽しく日本語学習が出来た上、それぞれ自分の個性と声を出せる事が出来た）と思います。共に作る教室の為の工夫、この一手間を加える事によって、今までのよりもっとコミュニケーションが取れて、皆が輝く居場所になれると思います。

共に作るコミュニティとしての教室

木下アゼネットさん（【研修1・2】アシスタント）

私にとって、「コミュニティとしての教室」は、日本語を学ぶ仲間同士で多くのことが学べる場所でした。その時の仲間は、友人として長く交流を持ち続けることができています。私の世界がとても広くなり始めた場所でした。教室の存在を知らず学ぶ機会を逃しそうな人に、紹介できるとても大事なところですよ。

今回の研修に参加された学習者の方々も、当初は日本で暮らすため教室の力を借りる気持ちだったと思います。その手助けと共に、各国の方と日本語での会話と多くの交流が始まる教室としてついて欲しいと思っています。その力により日本の生活にも慣れ、強く暮らすことが出来ると思っています。

研修会のボランティアとして、これから学ばれる方への手助けになる機会を提供していただけてとても感謝しています。私自身も、来日当初から多くの方に日本語学習を助けていただきました。出会いがあればあるほど、そして学習者でもボランティアでも、学べば学ぶほど、コミュニティが広がり多くの人達の力になることができます。

2016年度日本語ボランティア研修会実施報告書
「外国人・日本人と一緒に作る日本語教室の試み」

発行日 2017(平成 29)年 3 月
編集・発行 公益財団法人 横浜市国際交流協会
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F
電話 045-222-1173(多文化共生推進課) <http://www.yoke.or.jp/>